

洋上風力発電基地港湾形成に向けた情報交換会を開催しました

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

2050年「ゼロカーボン北海道」実現の柱となる洋上風力発電施設の導入を促進するため、北海道における海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾(基地港湾)形成に向けた港湾管理者、発電事業者、関係行政機関による「北海道における洋上風力発電の基地港湾形成に向けた情報交換会」を北海道開発局港湾計画課主催にて、1月14日(金)に開催しました。

当日の情報交換会は対面とweb併用により開催し、9港湾管理者、8発電事業者を含む約60名が参加しました。

情報交換会では、まず国土交通省港湾局海洋・環境課、椋平課長補佐より洋上風力における基地港湾制度

の概要・現況について報告をいただきました。

次に、港湾管理者より洋上風力発電資機材の取扱いが可能と想定される岸壁・ヤード状況等について報告をいただき、最後に発電事業者より洋上風力発電の設置を希望・想定する海域・場所、発電量や利用を希望する港湾、港湾施設の要求スペック等について報告をいただきました。

電源事業者の発表は機密が含まれることから、情報交換会の内容は非公表となりますが、今回の情報交換会を足がかりに、港湾管理者と発電事業者の議論が深まり、今後の北海道における洋上風力基地港湾形成が促進されることを期待します。



情報交換会の様子(対面・Web併用)



港湾局海洋・環境課の報告

石狩湾新港東地区国際物流ターミナル整備事業の着手について

北海道開発局 小樽開発建設部

石狩湾新港は、北海道の日本海側・石狩湾沿岸のほぼ中央に位置し、札幌市に最も近い港湾であり、港湾地域には道内・外から700社を超える企業が立地しています。平成15年にはリサイクルポートの指定を受け、リサイクル関連産業やエネルギー関連産業など、多数の企業が進出し、設備投資など活発な企業活動が行われています。

その中で、石狩湾新港東ふ頭は、自動車等から発生する鉄スクラップの輸出拠点として利用されており、近年、東南アジアや南アジア等の新興国では経済成長により電炉生産量が増加し、鉄スクラップの需要が高

まっています。また、バイオマス発電所が令和4年8月から稼働予定であり、発電燃料(木質ペレット、PKS)を取り扱う見込みがあることから、新たな貨物へ対応した岸壁も求められています。

これらのことから、大型船舶(30,000DWT)に対応した岸壁の必要性が高まり、令和3年度から「石狩湾新港東地区国際物流ターミナル整備事業」に着手しました。

事業の概要は、既存の水深10m岸壁に接して水深12m・延長240mの岸壁を新たに整備し、併せて泊地、航路泊地、背後の港湾施設用地、ふ頭用地を整備します。

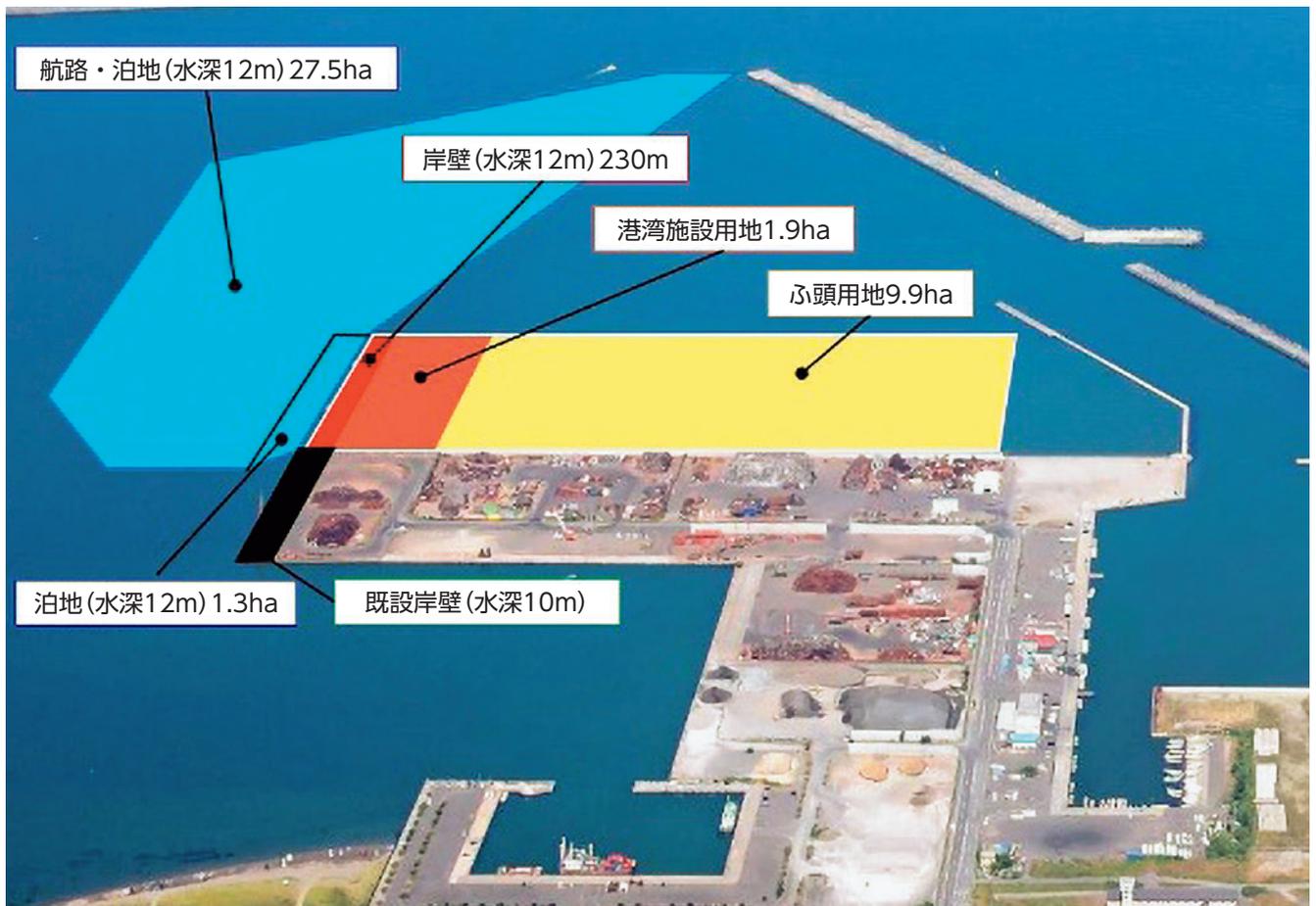


写真1 石狩湾新港東ふ頭全景

新設岸壁である水深12m岸壁は二重矢板式構造で、前面と控えに鋼管矢板を打設します。令和3年12月8日には千葉県君津港から現地に鋼管矢板を搬入し、令和4年1月7日に最初の鋼管矢板を打設しました。

事業の実施にあたっては、航路及び泊地浚渫から発生する土砂を有効活用し、コスト縮減に努めていくとともに、CIM(Construction Information Modeling)を導入することで品質向上、安全対策の向上、施工計画等の生産性向上を図ってまいります。

本事業により、貨物需要の増大に伴う船舶の増加や大型化に対応し、鉄スクラップ輸出の国際競争力の向上を図るとともに、バイオマス燃料等の安定した取り

扱いを可能とし、地域の産業振興をより一層推進してまいります。



写真3 控え鋼管矢板の打設状況(1本目)



写真2 鉄スクラップ船の積み荷状況



写真4 鋼管矢板の荷下ろし状況(東ふ頭)